

2019年度 いちいの杜 施設目標

スローガン ”介護老人保健施設の理念にのっとり、

利用者の在宅療養を担う役割を果たす”

- 1 施設内の連携を密にする
- 2 フロアのケアマネージャーを中心にしてケアプランを実践する
- 3 R-4システムを活用して業務の効率化を高める
- 4 人材育成に全職員が協力する

巻頭言

理事長 金光 弘

いちいの杜を開所して16年が迎えたが、その間の介護分野の変遷は驚くべき速さで進んできている。老健も開設当初は特養との違いも曖昧で一時は特養入所までの待機場所と認識されていた。しかし、新オレンジプランなどで看介護が一带となり在宅復帰を主張とする施設となってからは以前のままの施設体制では乗り切れない状況になってきたのである。

老健と特養の違いは療養期間の長さの相違だけでなく、老健には介護士の他に医師や看護師、リハビリも常勤しているのである。これに加え、いちいの杜では薬剤師や在宅管理栄養士までも常勤している。

今年度からは各フロアにケアマネージャーを配置したのも、各々の職種がそれぞれでケアにあたるのではなく包括的なケアシステムを取り入れるためのものなのである。

入所者の医療依存度が急激に高まる中で、生活リハビリを行いながら生活の自立支援をおしすすめて多くの利用者を在宅復帰させる事は益々難しい状態になってきているのだ。幸いいちいの杜は現在も超強化型老健として70%以上在宅復帰率を保ってはいるが、一部の職員からこれでは老健なのか病院なのか判らないという声も聞かれている。介護は一人で行うと非常に大変な仕事だが、皆で行うとこれ以上やりのある仕事はないのではないのだろうか。2025年問題が目前にせまるなか、空閑と現状に甘んじていると、気づいた時には取り返しのつかない状況に陥ってしまいかねない。

今一度、現状を見直し、包括ケアシステムの導入に向けて日々の業務に取り組んで欲しいと思っている。

情報連携の縦軸(時間、順序)

施設長 浜田 篤

以前に「情報連携の縦軸(時間)と横軸(空間)」という話をしました。今回は縦軸について、少し細かい話をします。複数の情報が同じ人に伝えられる時に、情報の発生元の出来事が起きた時間の順序というのは、大切な情報になります。「靴下を履いてから靴を履く」は普通ですが、「靴を履いてから靴下を履く」ですよ。という訳で、複数の情報が伝わって来た時に、聞き手の側は出来事の発生順序を吟味して解釈をしないと、判断が誤ります。逆に話し手の側の頭の中では、伝えようとする内容は記憶の中で一つの物語として保持されているので、出来事の時間順序は当然過ぎて、言葉として伝えられないこともしばしばあります。これが多くの場合、誤解や判断ミスを招く原因となります。

誤解や判断ミスは、連携を壊します。情報連携の重要性が叫ばれている昨今、情報の縦軸(時間)について、みんなですっかりと考えていきましょう。

「なんでも相談室」開設

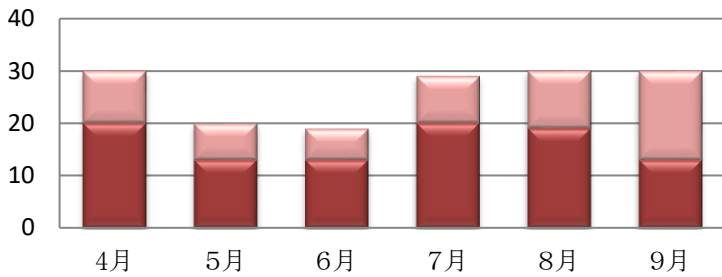
理事 飯塚 和子

私は、いちいの杜入職当時から、どの職種のスタッフでも気軽に相談に来てほしいと考えて、「なんでも相談室」を始めさせていただきました。しかし、10年経過して、待っているだけでその機能が果たされていません。看護師のユニフォームをしているからではないかと、理事長の御指摘もあり、いつものユニフォームを変更することになりました。これからは、別のユニフォームを着用して、1F~4Fをラウンドしながらスタッフからの声を聞き、一緒に考え、適時問題や課題を理事長や施設長に進言する役割もさせていただこうと思っています。

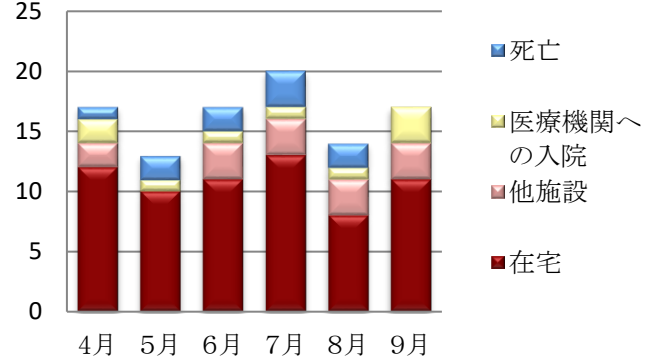
週2日足らずの勤務でこのような重要な役割が果たせるか不安ではありますが、与えられた職務と考え、老体にムチ打ってもうしばらく頑張らせていただこうと考えています。今後ともよろしくお願い致します。

平成31年4月～令和1年9月 実績報告

入所者数(名) ■入所 ■ショートステイ

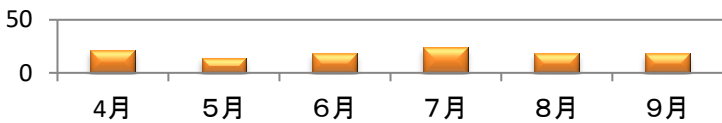


退所者内訳(名)

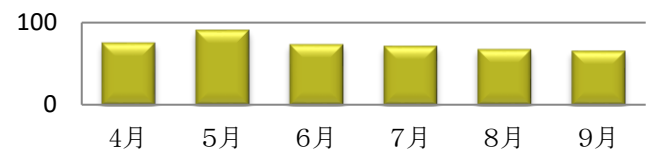


ベッド回転率(%)

(通常は、直近3ヶ月のデータで集計するものです)



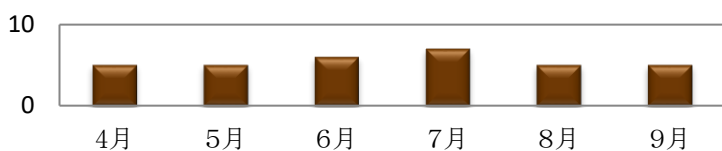
在宅復帰率(%)



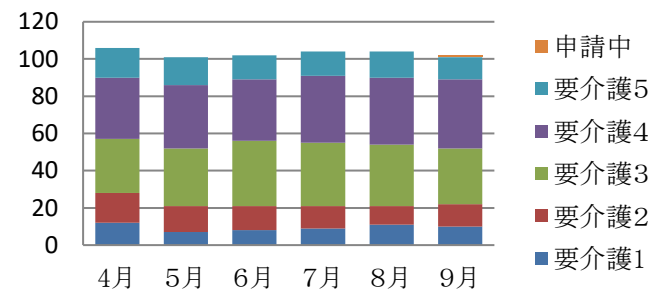
稼働率(%)



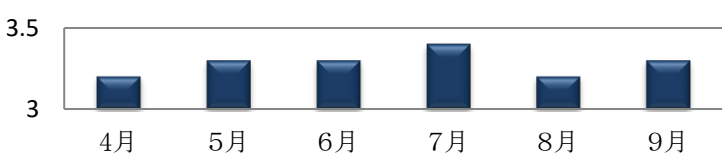
経管栄養(名)



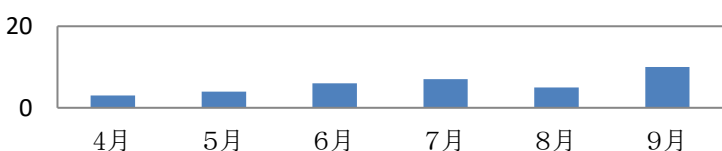
介護度別(平均要介護度3.4)



痰吸引(名)

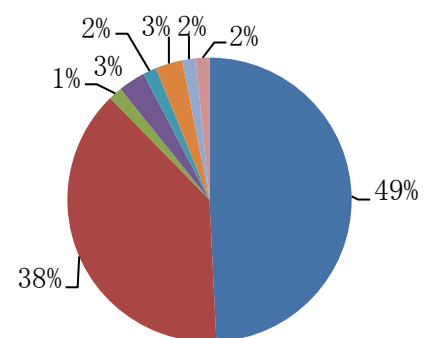


酸素使用者(名)



在宅復帰者住所

- 昭島市
- 立川市
- 国立市
- 小平市
- 青梅市
- 東大和市
- 武蔵村山市
- 福生市



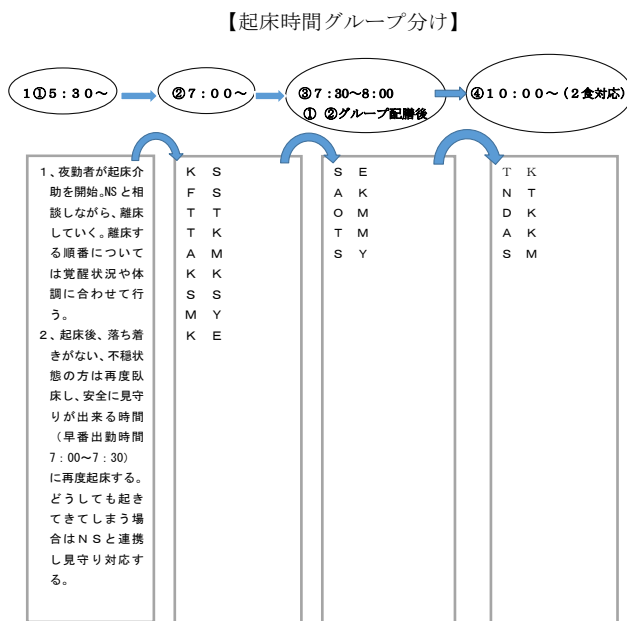
平成31年4月から令和1年9月までの半期の実績報告です。今期も、98名の入所受け入れを行いました。経管栄養や痰の吸引の必要な方や、心疾患や肺疾患で在宅酸素療法を必要とする方等多く入所するいちいの杜で、65名の入所者が在宅復帰を果たしております。65名のうち要介護4が18名、要介護5が5名含まれています。昭島市や隣接する立川市以外の入所者も通所リハビリテーションや訪問診療、訪問看護の利用で体調管理を行うことで在宅復帰を可能にしています。また、今年度より、各フロアで生活動作等のグループ分けを行うことで各事業所間の連携がより分かりやすく明快に図れるようになっています。

フロアケアマネジャー報告

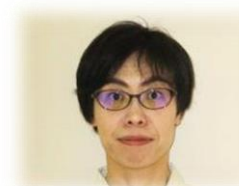


2階フロアケアマネジャー 見留 博紀

4月より、2階フロアにおいては、利用者を起床時間に合わせた4つのパターン(通常時刻、朝食前、朝食直前、朝食後)でモーニングケアを提供しています。その結果、以前に比べると日中傾眠されている方が減り、生活リハビリにも意欲的に参加されている方が増えています。介護・看護職員が起床時間を認識する事で、利用者の既往歴(心疾患がある等)も自然に把握する事が出来ています。このグループ分けは、都度更新されなければならない、そして個々の生活レベルを向上していくためのツールでもあります。また、事故対策として、利用者の左胸にネームシールを貼付する事で、新人職員やベテラン職員でも入所者の名前を間違える事がなく、利用者本位の介護・看護を実施されているかの確認にも繋がっています。今後も「その人らしさ」、「自立支援」が見えるケアプランをフロアケアマネジャーが中心となり、日々その都度利用者、各職種に声掛け、傾聴しながら利用者一人一人のニーズに合致したケアプランを作成していきます。



□各グループの利用者は、その日の体調(血圧)覚醒状況で遅めのグループへと移動してもよい。



3階フロアケアマネジャー 立野 里美

今年度4月より3階フロアケアマネジャーが配属となり、ご利用者に対して我々職員が統一的なケアをする為にご利用者の身体状況や精神状況など含めた見直しを行い、グループ分けを行った。それから半年が経過した。試行錯誤を繰り返しながら、グループ分けの型が出来上がりつつある。3階では夏の熱中症対策として、利尿剤を内服し、尚水分制限のある方、利尿剤のみ内服されている方を表に落とし込み、脱水予防やトイレの対応などを考慮したケアが出来たと思う。一方で、表に落とし込んでみたが情報量が多くなってきたので、表の見やすさの改善が今後の課題の1つである。グループ分けの目的の1つとして、ご利用者に合った個別ケアや職員の業務軽減に繋がると思い、勉強会を昼休みやミーティングの時間を利用して開催している。皆に少しでも関心、理解を深めてもらい、グループ分けを浸透させる為に努力した。

表を可視化することで、その人に何を支援するかが明確化になってきた。多職種とのカンファレンスにて話し合っって連携につなげて行きたい。

いちいの杜行事

納涼祭



8月17日(土)に毎年恒例の納涼祭が開催されました。幸い天候にも恵まれ、300人以上の方々にご参加いただき、盛大なお祭りになりました。

迫力ある昭島鳳凰太鼓の演舞、職員によるお神輿や獅子舞と、今年もご利用者様が楽しみにしている催しが盛りだくさんでした。ご家族の皆様も大勢ご来所いただき、ご家族と一緒に楽しい時間を過ごされるご利用者様の笑顔を見せていただくことができました。また、「獅子舞がよかったよ」「楽しかったよ」とお褒めのお言葉をいただき、職員一同感謝しております。来年も楽しい納涼祭が開催できるよう頑張ってまいります。



百寿祭



9月12日(木)に百寿祭が開催され、長寿のお祝いをさせていただきました。百寿を迎えられた2名と、95歳以上の9名のご利用者の皆様と獅子舞、お神輿による行進を行いました。百寿を迎えられた2名には、背に櫟(いちい)の文字が入った若草色の半纏を羽織っていただきました。この半纏は絹・麻・綿で織り上げられた特別なもので、「しぶとく生きよう」という思いが込められています。いちいの杜には90歳を越えた方々が多くいらっしゃいます。多くの方にこの半纏を着ていただきたいと思ひます。



介護の日



11月11日は介護の日です。「介護について理解と認識を深め、国民への啓発を重点的に実施するための日」として平成20年に制定されました。介護について、もう一度振り返っていただくきっかけになれば、と思っています。

新入職員紹介

新たに以下の職員が仲間に加わりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

介護部

事務部



石田 ポア



高田 優太郎



渋谷 恭子



小山 学



大島 正則

設備について

昨年度の厨房工事と厨房器材の交換に引き続き、今年度エアコン130台、LED照明948台交換のため工事を行いました。年末までにパソコン、システムの入れ替えをする予定です。ご利用者様のため設備を充実させ、快適な施設環境のもと、在宅復帰に向け支援してまいります。



医療法人社団弘樹会
介護老人保健施設 いちいの杜

住所 東京都昭島市武蔵野3-5-63
TEL/FAX 042-500-0151/042-500-1533
ホームページ <http://www.kanemitsu-c.or.jp/>